

ゲートリフトⅢ

NEW!!

GPY-32NA

(標準仕様)

GPY-32NAL

(薄型アーム仕様)

3.2ton
仕様

能力3.2ton!

軽自動車から小型トラックまで幅広く対応します。

ドアが大きく開けられ降り乗りらくらく。建屋の天井高さに合わせ上部が可変式で設置条件も幅広!

このアームに注目!!

GPY-32NALの特長

この差が効く!!



普通車はもちろん、低床車やサイドスカート装着車などリフトアームの接触によりできなかったリフトアップが可能になりました!

GPY-32NALは受金とアーム高さがわずか**95mm!!**

BANZAI 株式会社 バンザイ

本社
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6880
E-mail: teigy@banzai.co.jp

関東支店
埼玉県北本市朝日4-553
TEL 048-590-3700
E-mail: kanto_br@banzai.co.jp

大阪支店
大阪府市長田東3-3-11
TEL 06-6744-1041
E-mail: osaka_br@banzai.co.jp

海外販売部
東京都港区芝浦4-16-23
AQUACITY芝浦8F
TEL 03-3769-6894

●営業所 旭川・青森・秋田・盛岡・郡山
山形・新潟・長野・前橋・宇都宮
水戸・埼玉・千葉・横浜・静岡・多摩
北陸・三重・京都・神戸・高松

●出張所 帯広・函館・富山・松山
岡山・山口・長崎・大分・熊本

●販売会社 バンザイ南九州販売(株)
バンザイ沖縄販売(株)

札幌支店
札幌市西区24軒1条7-3-10
TEL 011-621-4171
E-mail: sapporo_br@banzai.co.jp

東京支店
東京都港区芝浦4-16-23 AQUACITY芝浦8F
TEL 03-3769-6840
E-mail: tokyo_br@banzai.co.jp

広島支店
広島市西区南観音2-7-10
TEL 082-233-3201
E-mail: hirosima_br@banzai.co.jp

仙台支店
仙台市宮城野区福室2-8-21
TEL 022-258-0221
E-mail: sendai_br@banzai.co.jp

名古屋支店
名古屋市千種区青柳町6-26
TEL 052-732-2600
E-mail: nagoya_br@banzai.co.jp

福岡支店
福岡市博多区那珂5-3-15
TEL 092-411-1261
E-mail: fukuoka_br@banzai.co.jp



ISO9001・ISO14001
自動車整備用機器検査用機器の設計開発販売及びサービス
バンザイでは「顧客第一主義」を信条に
お客様とのきずなを大切に、
お客様満足度の向上を図ってまいります。

BANZAI NEWS

2017
Winter
301

特集
BANZAI NEWS

時流を読む。

～次世代イノベーション! 問題解決思考のススメ～

人と車、大きな変化の時代へ向けて、
2017年のサービス市場を展望





岩本山公園から望む富士山 静岡県富士市

梅の花越しに、はるかに眺める春の富士山。駿河湾に面し、富士山を南側から望む富士市の岩本山は標高193m、市街地からも間近な市民の憩いの場となっています。頂上に広がる岩本山公園は四季折々の花の名所として知られ、とくに400本の梅が満開となる頃は観梅に訪れる人々で賑わいます。

★歳時記

- 1月 1日 元日
- 7日 七草
- 9日 成人の日
- 2月 3日 節分
- 4日 立春
- 11日 建国記念日
- 3月 3日 ひな祭り
- 17日 彼岸入り
- 20日 春分の日



●目次

- ★新年のごあいさつ……………①
- ★特集 時流を読む……………②
～次世代イノベーション! 問題解決思考のススメ～
人と車、大きな変化の時代へ向けて、
2017年のサービス市場を展望
- ★モデルショップ訪問【株式会社関東マツダ 高田馬場店】……………⑥
都内最新のマツダ「新世代店舗」が誕生!
新たなブランド発信・体感の拠点に
- ★モデルショップ訪問【国際興業株式会社 ポルシェセンター札幌】……………⑧
高級スポーツカー、ポルシェのブランドに
ふさわしいサービスの「クオリティ」を追求
- ★ショールーム……………⑩
- ★TOPICS<海外情報・モンゴル>……………⑭
- ★ロータリー……………⑯
- ★BANZAIガイド……………⑰

あけましておめでとうございます

皆さまにおかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また平素より格別のご愛顧を賜り誠に有難うございます。

さて、昨年は英国のEU離脱に続き、大方の予想に反する結果となった米国大統領選という世界経済の潮流を左右する2つの大きな出来事がありました。昨年末においては米国の景気拡大への期待から株価が上昇し、為替も円安ドル高基調に転じました。こうした状況の中、今後の米国の経済政策に期待が高まると同時に、先行きの不透明感が増しているとの見方もあり、米国の政策の動向と日本への影響について注視していくことが肝要と思われまます。

また、自動車においてはEVやFCVなど環境配慮技術に加え、衝突防止機能などの安全性能の高度化、自動運転技術の発展など、近年著しい進化を遂げつつあります。このような技術のイノベーションは、当然のようにアフターサービスにおいても高度なイノベーションが求められることとなります。自動車のセンサーで感知する情報から、予防メンテナンスを可能にすることや、故障情報の解析結果を自動車の開発に活かされるといった技術も検討されています。高度な技術や知識、最新の診断機器を必要とする時代は既に訪れており、近い将来には人工知能(AI)の利用により、整備工場のメカニックをサポートして車の診断や、故障への対応・問題の解決を行う事を可能とするシステムの導入も検討されています。

このような市場の変化、皆さまの経営環境の変化をとらえ、バンザイは本年「提供サービスの再構築」をテーマに、各種のご提案を展開してまいります。「新しいビジネスモデルの提供」「新技術への対応」「研修・トレーニングの提供」などのサポートを充実させます。また、本年6月に開催する「オートサービスショー2017」では、「人と車の未来に向けて～次世代の整備と環境を創る～」をテーマに、最新の技術を皆さまにご提案致しますので是非ご期待ください。

弊社は、皆さまの声に真摯に耳を傾け、ご信頼をいただけるパートナーとしてありつづけますよう、注力してまいります。

末筆ではございますが、皆さまの益々のご健勝とご発展をお祈り申し上げますとともに、本年も倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



株式会社 バンザイ
代表取締役社長 柳田 昌宏

時流を読む。

～次世代イノベーション! 問題解決思考のススメ～

人と車、大きな変化の時代へ向けて、 2017年のサービス市場を展望



昨年は世界を驚かせた「ブレグジット」英国のEU離脱に始まり、これも世界中のマスコミを過熱させた米国大統領選の展開とその意外ともいえる結果など、私たちの予測を超えた変化が現われた一年となりました。これらの出来事に象徴されるように、まさに近年の世界の潮流に一石を投ずるような、大きな展開の年だったといえるでしょう。このような主要国の動向は世界の経済活動にも密接な影響を及ぼしてきます。わが国の重要な基幹産業である自動車と、そのサービスに関わる私たち業界にとっても、大きな関心をもって注視したい一年の始まりとなりました。

ITとの融合で車とサービスにも新しい潮流が

昨年のビッグニュースの数々は、日本においても多くの人々の予想を超える変化であったといえるでしょう。これまでの20世紀後半の大きな潮流として、世界各国の協調のもとにグローバリズムが推進されてきましたが、21世紀に入ってからはその弊害ともいえる様々な現象が起こり始めたこともまた事実でした。昨年の大きな出来事も、こうした世界が境界を低くしていこうとする流れに対する反作用として表れたかのような印象もあります。このような現象は今後の世界情勢にもさまざまな変化を及ぼしてくるのでしょうか。

経済の面では昨年末は大統領選後の景気回復への期待から米国ではドル高、株高が進み、日本経済にも円安の流れが起こりました。これらの結果から見るとひとまず懸念されたような極端な影響は回避された印象です。また一方、昨年まで安値で推移した原油価格は昨年末のOPEC総会での減産の合意により上昇に向かう気配を見せています。こうした昨年末までの流れが今後の中期、長期の動向にどう結びつくかは、まだ予断を許されません。いずれにせよ日本経済にとっても今後の回復につながることを期待したいものです。

また自動車の分野においては、ここ数年来の流れの中で、未来のモータリゼーションにつながると思われるような、いくつかの変化が徐々にその姿を明確に現してきました。その一つには、自動運転技術の進化があります。安全運転を支援するシステムについては以前から各メーカーで開発がすすめられてきましたが、2010年代に入って欧

米のIT系企業が参入し、急速に自動運転への技術開発が進められてきました。

「人」をサポートする、 システムの高度化へ向けて

自動運転については、現在はもちろん段階的な開発の途上ですが、すでに自動ブレーキなどの衝突回避システムや、誤発進、急発進の抑制機能、ペダルの踏み間違いなどの人為的ミスを防止するための安全運転支援の機能は大幅に高度化して実用化されています。米国運輸省の自動運転の1～4のレベル区分でいえば、すでに「レベル2（一部自動化）」までの機能はクリアし、実際に搭載された車が市販されています。より高度な「走る」「曲がる」「止まる」の一部の機能を自動化した車も段階的にはありませんが実用化されています。今後はIT企業も含めた世界のメーカー間での技術的提携のあり方や、規格の統一についての連携が焦点になっていくものと思われます。

こうした自動運転化の目的は、まず交通渋滞の解消、交通事故の減少、環境負荷の低減などの社会環境的な効果であり、もう一つには高齢者等の移動支援、運転の快適性向上を目指すことがうたわれています。



昨年、マスコミで大きく取り上げられたことの一つに、高齢者による事故が目立ったことがありました。人口構成に占める高齢者の割合は年々増加しているのですから、比例的な増加という現象はある意味で必然とも言えるのですが、これらの事故の中で重大な結果にまでつながったケースが増加したということで、一つの社会現象のように報じられました。人の感覚や運動能力がある程度年齢によって制約されることは避けられません。したがってこれをシステムの側からサポートすることが当然求められてきます。

そのため高齢者等にも自由なモビリティ環境を実現することと、さらに近年取り上げられるようになった地方における移動手段の確保にも有効な対策として自動運転が注目されているわけです。

AIで進化する予防サービスの未来像

さらに昨年新たにクローズアップされてきたのが、様々な分野で研究が進められているAI(人工知能)とよばれる技術の進化があります。現在ではロボット化の技術は各種の分野で実用化されていますが、これらはあらかじめプログラミングされたコンピュータによって人間の指示通りの仕事をこなすことが目的でした。こうした機能にさらに経

験をもとに学習し、判断をする機能までを加えたロボットまで、まだ実用化には至らないまでも実現の領域に迫っているといわれます。素人にも分かりやすいAIの進化として昨今話題にされるのが囲碁や将棋の世界です。昨年英国企業の開発によるコンピュータが世界トップクラスのプロ棋士との対戦を制したことで話題になりました。

このような先端技術がどのように自動車に組み入れられていくのか、これはまだ近未来の予想に過ぎませんが、サービスにも大きな影響を与えていくことは間違いのないでしょう。現在すでにOBDという形で搭載されている自己診断機能も、AIの導入により故障前の予防メンテナンスが可能になったり、また故障情報の解析とデータのフィードバックにも活用されるでしょう。現在はどこかのセンサーに異常が発生するとインパネにランプが点灯し、カーオーナーがサービスショップに電話をかけて入庫するという手順です。さらにIoT(モノのインターネット化)が導入されると、システム自体が故障を未然に予想してサービスショップにアクセスして予防メンテナンスを受ける、ということになるかもしれません。人間でいえば過去の経験から「何かゾクゾクするな、これは風邪をひくかもしれないな」と、早めにお医者にかかるなど予防対策を講じるといったイメージでしょうか。

多様なニーズに新たなビジネスモデルで対応

さて2017年、バンザイでは、「時流を読む～次世代イノベーション」の第二弾として、「提供サービスの再構築 ～顧客は真に何を求めているのか～」をテーマにご提案します。お客様が本当に

求めているものはどのようなサービスでしょうか。すべてのお客様を一つの物差しで測るのではなく、個客として見直すことから、真のニーズが見えてくるかもしれません。

例えば、「安く、早く」という一般的なニーズに対応して進化してきたのが通販業、物流サービスなどのビジネスモデルです。しかし最近はこのようなビジネスにも単一の価値基準によるサービスから、「選べる」多様なサービスを志向する動きが出てきています。

ネット通販などはもともと低価格とスピード、そして居ながらにして商品を手にするのを売物にしてきたサービスでしたが、最近では平日の会社帰りにコンビニで受け取れるサービスなど、受け取り手の都合に合わせた選択を可能にするなど、顧客の利便性と配達サービスの効率化を両立する試みがなされています。

その背景には小口宅配の普及につれて、核家族化、女性の社会進出などによる不在再配達増加、さらにドライバーの不足など、円滑な物流の効率を阻害するさまざまな要因が現われてきたことがあります。こうした状況を改善するため、物流に依存するネット通販大手では「急がない」配送サービスも選択肢に組み入れています。ネットで注文する際に「急ぎの配達は不要」を選択すると、他の商品とまとめて配送するなど、ドライバーの集配の都合に合わせて配送され、その代わりに顧客はポイントを特典としてもらえるというシステムです。顧客にとっては特に急いでいる商品でなければ、在宅の時にまとめて届けてもらっ

た方が都合がいいし、配達する方にとっても効率的ということになります。

また宅配便では利用頻度の高いユーザーを会員化する取り組みを推進しています。会員になっていただくことで、顧客の利便を図る一方、配達の効率化にも協力して頂こうというものです。あらかじめ顧客専用のカレンダーに在宅のスケジュールを記入していただいて、それに合わせて配達、引取りを効率的に行うということで、顧客満足と企業の効率化というwin-winの形を実現できることとなります。

顧客が真に求めるものとは？

こうしたビジネスの変化はごく一例にすぎません。しかし、これまでニーズとされてきた指標では測りきれないほど、顧客のライフスタイルは多様化しています。もう一度、真のサービスのあり方を見直すことで、イノベーションの切り口が発見できるかもしれません。

さて、本年6月に開催されますオートサービスショーをはじめ、バンザイでは様々な機会をとらえて、お客様のご要望をお伺いし、また各種情報を発信、ご提案させていただきます。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



都内最新のマツダ「新世代店舗」が誕生！ 新たなブランド発信・体感の拠点に

首都圏の1都3県に100店舗を超える拠点を展開するマツダのメガ・ディーラー、(株) 関東マツダでは、このたび都内新宿区の高田馬場店を全面リニューアルオープンしました。新店舗はマツダの「新世代店舗」のコンセプトに基づいた設計、デザインを全面的に導入した販売・サービスの新たな拠点として、また都心部における「マツダブランド」の発信、体感拠点として位置付けられています。



明治通りの新たなランドマーク、高田馬場店の外観



デッキテラスは歩行者からの注目度も抜群



山手線内では初のマツダ「新世代店舗」

オープンな感覚で立ち寄りやすい店舗に

東京の新都心、新宿から池袋方面へ向かう幹線道路、明治通りに面した新店舗は、黒を基調とした外観に「品格」と「温かみ」を調和させ、あわせて「ダイナミックな動き」を表現した美しい局面のデザインが印象的です。近隣には商業地域を中心に早稲田大学、学習院大学などのキャンパスも多く、活気あるエリアにおける新たなランドマークとなっています。店舗の内外は黒を基調に木材など自然色の素材が配され、専用のインテリアにより居心地の良い雰囲気が創りだされています。

「オープン以来、通りすがりに立ち寄られるお客様も大変増えています」と、サービスマネージャーの金子祐巳氏。道路とショールームをつなぐ部分にはオープンなデッキテラスが設けられており、ここにも通行の方が気軽に立ち寄られるそうです。



ネットワーク、トリプルテスターを備えた検査ライン。壁面には防音材を採用



工場内は冷暖房完備、換気ファン、サーキュレーターも設備



清潔、快適なサービス環境で「見せる工場」に



高田馬場店
サービスマネージャー
金子 祐巳氏



サービス課
チーフエンジニア
笹岡 宏行氏

地下・屋内工場として快適な環境に配慮

サービス工場はショールームの地下にレイアウトされ、一般・車検整備5ストールに検査ライン、洗車ストールからなっています。主な設備はサービスストールにZフレックスリフト5基、検査ラインにトリプルテスター、ネットワークEasy、Zフレックスリフトのほか、洗車ストールには高圧洗浄機、ナイスホットとゲートリフトⅢ(洗車仕様)などを導入されています。地下の屋内サービス工場として、換気装置、冷暖房装置を完備、また照明には明るいLEDを採用、壁面にはすべて防音材を張るなど、作業環境の快適性に配慮されています。



洗車ストールにはゲートリフトⅢ(洗車仕様)、温水洗浄機ナイスホットを設備



各ストールの床に排気ガス排出システムを完備(右手前)



フラットキット付「Zフレックスリフト」で作業性・安全性を向上



ツールキャディ(右)と点検ツールを一台にセットしたツールワゴン(左)を活用



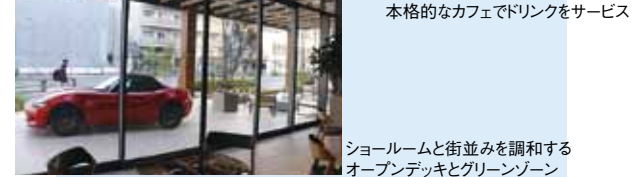
車両入庫はカーリフトで(1階)



グレーと木目の色彩をアレンジしたショールーム



本格的なカフェでドリンクをサービス



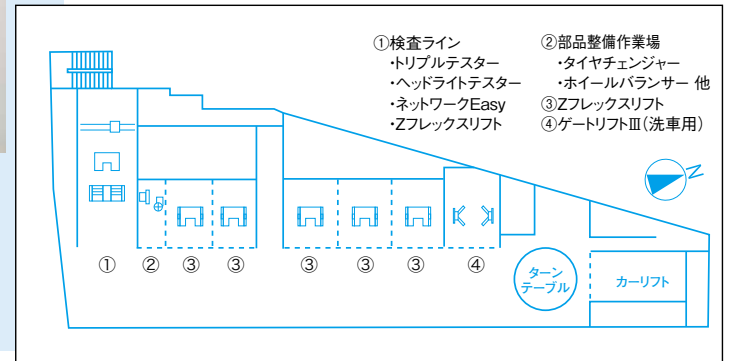
ショールームと街並みを調和するオープンデッキとグリーンゾーン

お客様と「つながる」サービスのコンセプト

「お客様とマツダ、お店とをつなげるのがサービスの役割です」と金子マネージャー。「ハードとしての工場は完成しましたが、そこに効率の良いオペレーションを構築していくことが現在の取り組みです」とのこと。1階のショールームとインカムによるコミュニケーションをとり、来店されるお客様の対応を行っています。

「新工場はお客様に積極的にお見せできる工場です」と話されるのはサービス課チーフエンジニアの笹岡宏行氏。「新車点検の際に、お客様に提案してサービス工場をご覧いただく取り組みを始めています」とのこと。清潔で効率的な最新設備を、サービスの信頼向上、満足度向上につなげるのが目的です。

新規来店客の増加の一方、「古くからのお客様にも敷居が高くならないように、気軽に来店いただけるよう親密なコミュニケーションを図っていきたいですね」(金子マネージャー)と、新店舗、工場での取り組みを推進されています。



- ①検査ライン
・トリプルテスター
・ヘッドライトテスター
・ネットワークEasy
・Zフレックスリフト
- ②部品整備作業場
・タイヤチェンジャー
・ホイールバランス 他
- ③Zフレックスリフト
- ④ゲートリフトⅢ(洗車用)

高級スポーツカー、ポルシェのブランドに ふさわしいサービスの「クオリティ」を追求

北海道のポルシェ正規ディーラー、国際興業(株)外車部では、販売の増加などに伴うニーズに対応するため、札幌の東営業所「ポルシェセンター札幌」をリニューアルし、規模、設備の充実を図るとともに、ポルシェのCIを全面的に導入したショールーム、サービス工場としてオープンしました。



市内へ向かう幹線国道「創成川通り」に面した店舗の外観



シルバーのファサードにロゴマークがくっきりと映える

ポルシェのCIに基づく店舗、サービス工場に

札幌市の中心部を南北に貫く創成川通りに面したポルシェセンター札幌の新店舗は、メタリックシルバーの大きな曲面形状のショールームがスケール感のある外観を見せています。市内の中心部からは約5キロ、高速の札幌自動車道の札幌北ICからも至近の立地です。今回のリニューアルは、北海道の全域をカバーする唯一のポルシェ店舗として、「販売、サービスのすべてにわたってクオリティの高いサービスを提供できる拠点とすることが目的です」と、工場長の鈴木敏明氏。さらに輸入車の中でもとくにプレミアムなスポーツカーと位置付けられる、ポルシェ・ブランドを表現するCIを全面的に導入しています。



工場長
アフター・セールス・マネージャー
鈴木 敏明 氏



外観、インテリアもすべてポルシェのCIに基づくデザインに



グレーを基調とした
サービス工場の外観



遠赤外線暖房、
排気ガスリールなど
環境設備も万全



作業性、安定性に
優れたタンデムリフトを導入

■北海道札幌市

サービスの効率、環境に最新設備を導入

新サービス工場はサービスストール3ストールに検査ライン、洗車場からなり、壁面はグレーのタイルの腰壁とし、床面は黄色系のタイル張りとなっています。主な設備はサービスストールにタンデムリフト3基、洗車ストールにゲートリフトⅢ1基を設備。検査ラインにはトリプルテスター、画像処理式ヘッドライトテスター、固定式フリーローラーのほか、車検業務の効率化を図るためネットワークシステムを導入されています。またアライメント仕様のワークステージXおよびマイクロラインEASY-3Dアライメントテスターも導入され、足回りの精密な診断が可能になっています。さらに各ストールには遠赤外線暖房システム、排気ガスリールも完備し、冬期も快適な作業環境を実現しています。



検査ライン、ネットワークシステムで
検査業務の効率化を実現



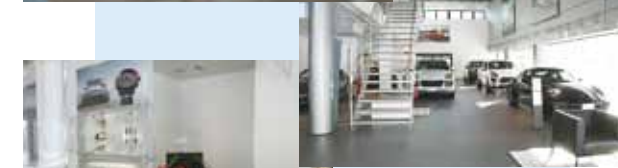
マイスター資格「シルバー」2名をはじめとする
スタッフがサービスに対応



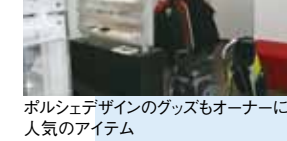
モンティタイヤチェンジャーと
ゲオダイナ balanサーで、ワイドタイヤにも対応



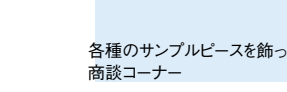
各車種の最新モデルを
ラインナップ



2階まで吹き抜けになったショールーム



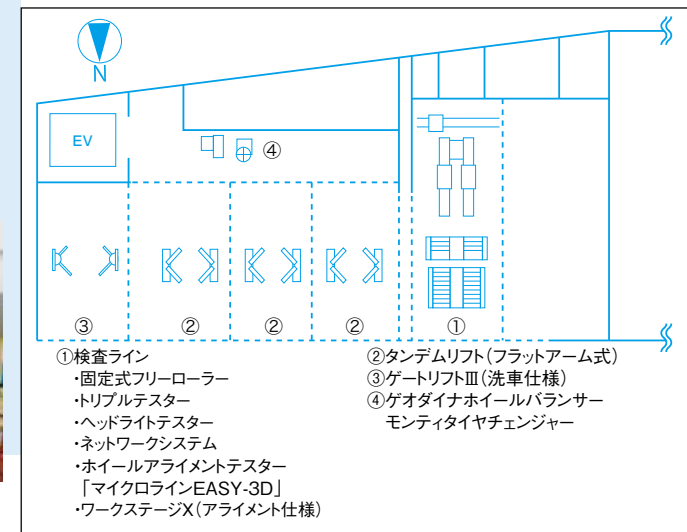
ポルシェデザインのグッズもオーナーに
人気のアイテム



各種のサンプル車を飾った
商談コーナー

「コミュニケーション」がサービス品質に直結

新工場の完成により、サービス環境の大幅な改善と効率化が実現されたことはもちろん、「とくに検査業務は楽になりました。手書きによるミスも無くなり、効率化を実感しています」と鈴木マネージャー、ネットワークシステムの効果を強調されています。道内全域をサービスエリアとするだけに、お客様とのコミュニケーションも重要です。「お客様との対応には、営業担当者とサービスメカニックの密接な連携が不可欠です」と(同)のこと。オーナーには企業経営者や医師などの顧客が多いとあって、日頃の信頼関係の構築がサービスのクオリティに直結します。「お客様の情報をスタッフが共有すること」、また「お客様の依頼事項にはなくても、細部にまで気を配ってサービスに当たることを心掛けています」と(同)。ドアの開閉のわずかな感触にまで気を配るなど、よりクオリティの高いサービスの提供に向けて新たなサービス体制を構築されています。



SHOW ROOM

【門型2柱リフト】 ゲートリフトⅢ GPY-32NAL

低床車もリフトアップが容易な、薄型アームで新登場!

設置が容易で作業性の良いアーム式2柱リフト「ゲートリフトⅢ」が、さらに作業性向上!
 新・薄型アームの採用で低床乗用車も簡単にリフトアップ!
 一般・車検整備から足回りのサービスまで、多彩な活用が可能です。

- 余裕の能力3.2ton、軽～普通乗用車で幅広い車種に対応
- 95mmの薄型アームで低床車、サイドスカート装着車もリフトアップ可能
- 足元スッキリ、作業スペースがひろびろ
- ドアも大きく開けられ、乗降もラクラク
- 各種安全機構も充実

新型アームはここが違います!
 普通車はもちろん、低床車やサイドスカート装着車などリフトアームが接触しやすい車両も、リフトアップが可能になりました。



GPY-32NAL			
能力	3,200kg	駆動方式	電動油圧・親シリンダー方式
対象車種	軽～普通自動車	電源	AC200V 3相 50/60Hz
揚程	1,800mm	モーター	1.5kW
全幅	3,746mm	エア源	0.7～1.0MPa
奥行	1,230mm	使用油/油量	ISO VG32/10L
全高	3,095～4,208mm	本体重量	約960kg
前アーム長さ	480～865mm	塗装色	本体：グレイッシュブルー アーム：ダークグレー(RAL7016)
後アーム長さ	897～1,497mm	標準付属品	低床クイック受金 4個
上昇時間	約60/50秒 (50/60Hz)		
オプション品	ネジ式アタッチメント(F130-OP-02)、トラック用アタッチメント(F130-OP-03)、延長台アタッチメント(F130-OP-04)、延長台アタッチメントL(F130-OP-07)、低床用コの字型受金(FQL-2)、受け金ラック(UR-1)、ルーフセンサー(ZY-OP-1)、薄型センターライン付フラット受けゴム(GPY-CFL-OPY)、リールブラケット(GPY-OP-RB2)、クイック受金用LEDミラー(UK-1)		

SHOW ROOM

【リフトポイント位置合わせミラー】 クイック受金用LEDミラー UK-1

LEDとミラーでリフティングポイントへの受金位置決めが簡単!
 アーム受金のセッティングが楽々行えます!

PAT

- リフトアームの位置合わせが、車両の下を覗き込まずに楽な姿勢で行えます。
- 赤色LEDを車両のリフトポイントに合わせて位置合わせが完了。



対象リフト受金
 ・クイック受金(QA-1)・低床クイック受金(P AMX0610000004)
 ※タンデムリフト(DPL-TP30A(B)ZMF-Y/-YS)及びラプラスリフト(DPL-L35AZF)にも使用できます。

型式	UK-1
電池	CR2032 (コイン型電池)
LED	赤色3灯 (位置合せ用) 白色2灯 (周囲確認用)

VIDEO MOVIE



(1分52秒)
 ※通信費用はお客様の負担となります。



赤色のLEDがリフトポイント(サイドシル)に合うように鏡を見て位置を調整。

調整後はLEDミラーを受金から外して、受金をそのまま上昇させてセットする。

【イルミネーションリールボックス】 コーションシステムボックス SBN-2-LE(2連) / SBN-3-LE(3連) (リフト・アイ仕様)

LEDイルミネーションで鮮やかに光るリールボックス

PAT.P

- リフトのメイン電源のON/OFFに連動してLEDが点灯/消灯
- リフト電源の切り忘れを防止できます

LIFT-EYEに連動



リフトの常時通電は危険です
 終業時にはメイン電源を「OFF」に!
 「LIFT-EYE」は通電状態が一目で確認できますので、電源の切り忘れを防止できます。



リフトのメイン電源ONでリールボックスが点灯、通電状態をお知らせ。

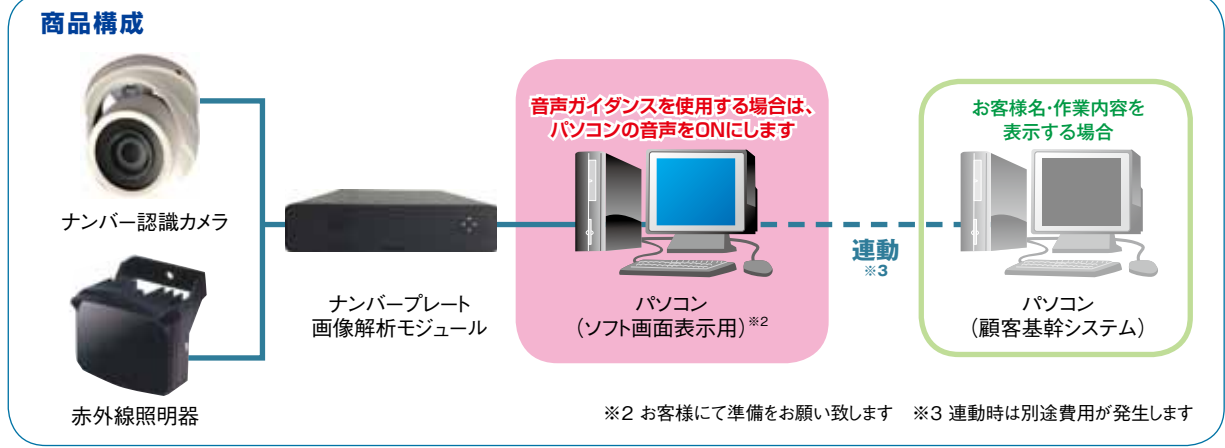
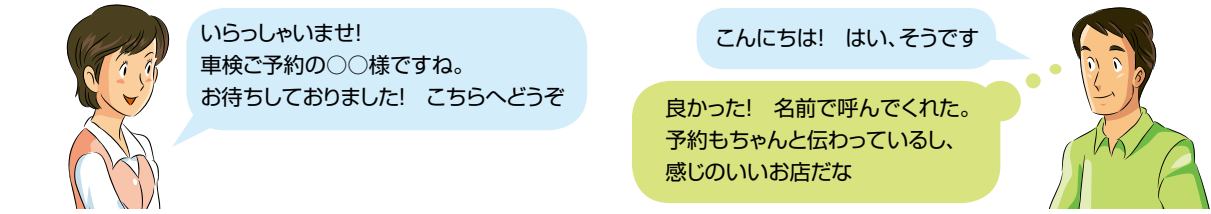
SHOW ROOM

[ナンバープレート認識装置] 来店表示システム

「〇〇様、いらっしゃいませ！」
ご来店時の、より高品質な接客対応を実現します！

- ご来店時のナンバープレートを認識
- お客様のお名前、予約情報・作業内容をモニターに表示※1
- ご来店を知らせる音声ガイダンス付き
- 顧客基幹システムとの連動が可能です※1
 - ・フロントマスター(バンザイ)
 - ・新一等書記官(DIC)
 - ・その他(別途ご相談ください)

※1 顧客基幹システムとの連動が必要です。連動には別途費用が必要になります。



SHOW ROOM

[大型車用ジャッキ] 低床型エアードライブサービスジャッキ 10t ASJ-100ML

トラック、バスのサービスに! 機動性の高い低床タイプ

型式	ASJ-100ML
能力	10t (1/2揚程から)
受金最低高さ	140mm
受金最高高さ	560mm
揚程	420mm
フレーム全長	1575mm
フレーム高さ	200mm
前輪全幅	334mm
後輪全幅	494mm
重量	135kg

- 能力10ton、揚程420mmで各種作業に機動性を発揮
- 最低受金高さ140mmの低床タイプ
- 手動/エア兼用、ペダル付



[タイヤチェンジャー] セカンドインパクトシリーズ/タイヤサポートアーム TCSI-22G/TCSI-PWR(マストチルト式タイヤチェンジャー/タイヤサポートアーム) TCSI-41ALG(マストスイング式タイヤチェンジャー)

好評のセカンドインパクトシリーズがマイナーチェンジ

- スピンドル(シャフト、カバー部)の形状を変更
 - ビードブレークシリンダー部のアーム・受台を変更
 - 塗装色を青色に変更
 - サポートアームを従来の左側に加えて、右側仕様をオプション設定※
- ※TCSI-22Gに設定(TCSI-PWR)
※現行の左側サポートアーム「TCSI-PW」も継続して販売いたします。

型式	TCSI-22G	TCSI-41ALG
マスト動作方法	マストチルト式	スイング式
適用ホイール径	12~22インチ(アウトクランプ)	
適応ホイール幅	3.5~12インチ	3.5~9インチ
最大タイヤ径	1100mm	
使用エア圧	0.8~1.0MPa	
電源	AC200V 3相 0.55kW	
本体最大寸法(mm)	W.1,245×D.1,740×H.1,950	W.1,300×D.1,150×H.1,850
本体重量(kg)	約200	

※TCSI-22、及びTCSI-41ALのオプション品をそれぞれ継続してご使用いただけます。



海外情報 モンゴル国 ウランバートル市

モンゴル国におけるトヨタ車正規販売店、ムンフハダ社(ライガーホールディングインターナショナル)では昨年7月に首都ウランバートル市に新店舗を完成、モンゴル最大級といわれるショールーム、サービス工場としてオープンしました。

バンザイでは同店のサービス工場に各種設備機器を納入、同国にて最も信頼あるトヨタ車に対する万全のサービス体制を、最新の設備機器によりサポートしています。



モンゴル最大級、近代的なショールーム外観



■パートナーシップのもとに連携を拡大

モンゴル国はアジア大陸の東北部、中国、ロシア両国の間に位置し、ゴビ砂漠と大草原の国として知られています。国土は日本の約4倍、人口は300万人ほどで、その43%ほどが首都のウランバートルに集中しています。わが国ではかつてのチンギスハーンによる大帝国の歴史と遊牧民の国というイメージがありますが、現在では鉱業、畜産業を主要産業とし、とくに銅、モリブデン、各種レアメタルなどの鉱物資源の輸出により2010年代は飛躍的な経済成長をとげています。わが国とは東アジアにおける平和と安定に資するパートナーシップのもとに、両国首脳の間も積極的に行われているほか、経済連携協定によりビジネスのつながりもさらに拡大するものとみられています。またわが国においては、大相撲の歴代横綱のほか多くのモンゴル人力士を輩出していることはご承知の通りです。



市内から空港へ向かう幹線道路に立地

■人気のトヨタ車にハイレベルなサービスを提供

モンゴルでは近年の経済成長にともなって自動車市場も急速に拡大しており、保有台数は約40万台といわれ、その多くが日本車で占められています。とくにトヨタ車は新車の約6割、中古車の約9割という圧倒的シェアを占め、とくにHV優遇税制によりプリウスをはじめとするHVが人気の的となっています。また郊外へ出ると悪路も多いためランドクルーザー、ハイラックスなどの4WD車も多く見られます。ムンフハダ社の新店舗・サービス工場は、トヨタブランドに対する顧客の信頼に対して、より高い付加価値を提供するため、規模、設備ともに充実を図り、既存の店舗から移転・リニューアルされたもので、整備ストール15、洗車ストール5、合計20ストールに各種整備機器を導入しています。とくに冬季にはマイナス30度以下にもなる厳しい内陸性気候のため、確実なメンテナンス、サービスが不可欠とのこと。「モンゴル最大級」を誇る同社の新サービス工場で、顧客のあらゆるニーズに応えるサービスの提供が期待されています。



広大なサービス工場と屋内の新車ヤード



バスカリフトが並ぶサービスストール。環境も快適



ずらりと並ぶゲートリフトⅡ、移動式の排気ホースも完備



門型洗車機も完備



ロビーに飾られた横綱白鵬関の化粧まわし



ガラス張りで明るいロビー



広々としたラウンジからサービス工場が見下ろせる

感動夢工場 34回研究会を開催

感動夢工場では昨年10月26日から2日間にわたり、広島市において第34回研究会を開催しました。今回の研究会では(株)ヤマウチ、カーメンテナンスシステム開発部次長、人見いずみ氏による「店舗集客とホームページ集客について」、また(株)星高、代表取締役、山崎愛氏による「広島車検センター 企業概要とその取り組み」の2つのテーマによる講演が行われました。人見氏は高松市内でガソリンスタンドと整備工場を運営する(株)ヤマウチで集客のエキスパートとしての長年の経験をもとに、今回ウェブ車検予約システム「totoco(とっこ)」を開発、同社の車検センター「ラチェットモーター」で高い成果を上げている活用のノウハウを紹介。また山崎氏は市場深耕のための中高年層をターゲットとした生涯取引拡大の戦略と、その具体策としてのベテランスタッフによるホスピタリティ重視の顧客対応など独自のオペレーションについて講演しました。2日目は市内の「広島車検センター」にて、同社の顧客対応の現場を見学、また「マツダミュージアム」にて、マツダのブランド戦略について説明を受け、製造現場を見学して2日間の日程を終了しました。



感動夢工場会長、高間専逸氏
講師、人見いずみ氏
講師、山崎愛氏



広島車検センターにて、同社の取り組みを見学

感動夢工場 メカニック向け生産性向上実務者研修会を開催

人材不足、市場競争の拡大など諸問題への対応策として、感動夢工場では11月21日から2日間、メカニックを対象とした生産性向上のための実務者研修会を開催しました。同研修は会員企業の千葉県館山市の(有)三平商会本社を会場に、(株)ティオ代表取締役、山本寛氏を講師として、作業指示から作業終了までの動線の確認、適合証交付のコンプライアンス確認など、実際の作業のチェックと評価から実車による作業改善まで、実務に生かせる充実した研修を行いました。



講師、山本寛氏



作業手順、動線のチェック、分析を行う



生産性向上の必要性と方法について研修

MSC経営戦略会議 第111回研究会を開催

MSC経営戦略会議では11月24日から2日間、神戸市内において第111回研究会を開催しました。1日目は(株)ダイハツ明石西大久保店の見学と、同社代表取締役、織田久史氏によるショートセミナーを開催。織田氏は「スタッフとともに成功するための5つの柱」と題して同社の経営戦略および取り組みを紹介されました。同社では保険販売への取り組みに力を入れており、自動車保険の付保率は60%超という高い実績を挙げています。こうした日頃の取り組みが、車両販売では兵庫県下で9年連続してトップセールスという成果につながっているとのこと。また2日目は(株)ヤマウチの人見いずみ氏を講師として「店舗集客とホームページ集客について」と題して講演を行い、ウェブ車検予約システム「totoco(とっこ)」の導入で24時間ネット予約による高い入庫台数と、新規顧客拡大の実績を挙げている同社の事例を中心に解説されました。

議長、山崎太氏



(株)ダイハツ明石西、代表取締役、織田久史氏

BANZAI GUIDE

厳選機器をお得な価格でご提供! 好評の39キャンペーン 第5弾を開催

平成29年1月より3月末日まで、バンザイでは皆様の日頃のご愛顧にお応えして「期末大感謝セール・39キャンペーン」を開催いたします。厳選された各種サービス機器を、割引総額392,000のお買い得価格でご提供いたします。この機会をお見逃しなく、設備機器の拡充、更新にお役立てください。



アンケートご協力有難うございました! お客様の声を、 業務改善へのアクションに…

No.300号にてご案内いたしましたアンケートに、多数のご回答を頂き、誠に有難うございました。バンザイでは皆様から寄せられましたご意見、ご希望を顧客満足度向上へ向けて業務改善に反映してまいります。今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



編集後記



明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。今年、わが国最大級の自動車機械工具実演展示会「第35回オートサービスショー2017」が、6月1日(木)～3日(土)の3日間、東京ビッグサイトにて開催されます。弊社におきま

でも、最新の整備診断機器の出展をはじめ、各種情報の発信の場として、本年も皆様へのご提案およびソリューションのご提案をさせて頂きます。未来サービスを実現する各種新製品やワクワクするような近未来商品を多数出展いたしますので、皆様のご来場を心よりお待ちしております。

<南>